

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和 元 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	文化人権課担当課長 藤田 聡一郎	
共創-25	実施事業	文学館管理運営事業	☒ 自治事務	主管課 文化人権課
	まち・ひと・しごと		☐ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	観覧や教養及び調査・研究に資するため。
効果	鎌倉ゆかりの文学及び文学者に対する理解を深めることができる。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

・指定管理者制度により、文学館の効率的な管理運営を行なった。
・指定管理者との役割分担に応じた維持管理を行なった。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度) 決算	30年度(2018年度) 決算	データ区分	01年度(2019年度) 当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	176,466人	人 口	176,436人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	81,150世帯	世 帯 数	82,444世帯	
	事業の対象者数	101,052人	事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	82,142	当初予算(千円)	75,891	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他	21	その他	21	
	一般財源	82,121	一般財源	75,870	
	人員配置数	0.7	人員配置数	0.7	
	人件費(千円)	5,289	人件費(千円)	5,470	
事業経費運営	総事業費(千円)	87,431	総事業費(千円)	81,361	
	市民1人当りの経費(円)	495	市民1人当りの経費(円)	461	
	対象者1人当りの経費(円)	865	対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
		○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー 市民団体（不特定）

事業 内容の 方向性	☐ a:事業内容を見直す ⇒	見 直 し の 種 類	☐ 拡大	見 直 し の 内 容	
	☒ b:事業内容は現状通りとする		☐ 縮小		
	☐ c:事業を休止又は廃止する		☐ その他		
	☐ d:他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				事業へ統合

予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	引き続き、指定管理者と連携しながら効率的な管理運営を行うとともに、緊急度の高い箇所の修繕を計画的に行なっていく。 また、施設等の老朽化による大規模修繕の必要が生じており、計画的且つ効果的な改修を行うための劣化度調査を行い、効率的な実施を進める。
	☐ B: 予算規模は現状維持とする		
	☐ C: 予算規模を縮小する		

総評 (評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、修繕費について手法や緊急度による優先順位をつける等の削減の余地はある。 文学館は鎌倉ゆかりの文学及び文学者の功績を市民等に発信する場であり、本市の文化振興において重要な役割を担っている。本市景観重要建築物である本館やバラ園を有する広い庭園等、魅力の溢れた施設であり、毎年度10万人を超える来館者数を確保している。このため、妥当性については、「市民ニーズ」は変わらずにあるとし、有効性については、成果は概ね出ているものの今後更なる市民ニーズに応えるために努力が必要とした。 市民団体等との協働事業は指定管理者によって既に行われているが、今後も地域文化振興に寄与するために地域イベントとの連携や庭園を活用した協働企画等を指定管理者等と協議の上、実施していく。 開館から30年以上が経過し、施設及び設備の老朽化が顕著であり、今後の来館者の安全性や鎌倉ゆかりの文学者の資料等の適切な保全のために緊急度の高い箇所から随時修繕を行っている。引き続き、指定管理者との協議の上で計画的な修繕を行うとともに、劣化度調査を行い効率的且つ的確な修繕計画による保全を行っていく。
-----------------------	---

平成30年度(2018年度)事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	開館から30年以上が経過し、施設及び設備の不具合が顕著である。 大規模修繕を視野に入れ、指定管理者と協議し来館者の安全と資料等の保全に向け、緊急度の高い箇所や設備の修繕を行う必要がある。	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	指定管理者と協議の上、不具合が目立つ箇所及び来館者に危険が及ぶ可能性のある箇所等緊急度が高い箇所の修繕を実施した。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	引き続き、緊急度の高い箇所や設備について修繕を行う必要がある。また、建物の保全に向けた計画的且つ効果的な修繕を行っていくため、劣化度調査を行い効率的な修繕計画を立て実行に移していく。加えて、来館者の目線に立ち、バリアフリー等の観点を取り入れるなど利便性を高めるための更なる方策が必要である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	延床面積・来館者数(H30)								
団体名	鎌倉文学館 (鎌倉市)	県立近代文学館 (神奈川県)	佛次郎記念館(横浜)	世田谷文学館					
他市実績	1,412㎡	7,285㎡	768㎡	4,593㎡					
	100,672人	42,334人	29,127人	267,931人					

比較事項	収蔵数								
団体名	鎌倉文学館 (鎌倉市)	県立近代文学館 (神奈川県)	佛次郎記念館(横浜)	世田谷文学館					
他市実績	83,455点	1,269,000点	70,000点	100,176点					

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	鎌倉文学館来館者数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0			
	実績値	110,046.0	112,066.0	103,631.0	101,052.0	100,672.0				
	達成率	110.0%	112.1%	103.6%	101.1%	100.7%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	例年、来館者数は10万人を超えており、その数を最低限維持するための目標値としている。年度による増減割合は1割に満たず、主な要因は天候等の外的なものと捉えている。
-----------------------	--